

# 法学入門

早川吉尚

2016年3月発売/192頁/本体1800円+税  
A5判/並製



編集  
担当者  
から

「法学部」では何を学ぶのだろう、「法学」ってなんだ？ という新入生の純粋な疑問にあの手この手でお答えし、いっしょに考える教科書です。「早川先生の『法学入門』の講義が面白いようですよ」とご同僚の先生方から伺って講義を拝聴し、他大学の学生さんたちにも広めたい！ と思ったので本にさせていただきました。

「法学」の本ですから、条文をきちんと読みながら考える章もありますし、法律にはどんなものがあるのかを語る章もあります（そういった章もやさしい語り口ですらすら読めますからご心配なく）。でも条文から離れて「法解釈」してみたり、世の中の様々なルールについて考えてみたりと面白い体験もできます。これを機に、周りに沢山あるいろいろな決まりについて考えてみると楽しいかもしれませんよ。

なお、先生が本書に関連してブログを開設しています。質問も受けてもらえると思いますので、遊びにいらしてみてください。「ストアディア法学入門」で検索！（YF）

## Point!

P

この世に動物が牛と馬しかないとしたら、真ん中の動物は何でしょう？



「牛」にも「馬」にも分類がなされておらず、みなさんがどちらかを決めなければなりません（上記において「牛」「馬」の二つの言葉しかなく、どちらか二つに分類されるはずであると定義していますから、「キリン」というのはなしです）。大学の「法学入門」の講義で、新入生達にこの質問をぶつくと、例えば、以下のような答えが返ってきました。

### ① 体型説

学生：「どちらかどうしでも決めなければならぬとしたら、『馬』だと思います。その動物は何となく『馬』に似ているからです」

先生：「なるほど、では、あなたの考えている『馬』に似ているものは、『馬』、あなたの考えている『牛』に似ているものは『牛』だとすると、『馬』に似た感じの牛を連れてきたら、それは『馬』だね」

学生：「いえ、それは牛ですから『牛』です」

先生：「じゃあ、『牛』か『馬』かは、あなたはどうやって決めているの？」

学生：「うーん、それでは、太っているのが『牛』で、細まっているのが『馬』です」

先生：「とすると、太っている馬が来たら、それは『牛』だね」

学生：「いえ、それは馬ですから『馬』です」

先生：「うん？ おかしいね、さっきは太っているか細まっているかが区別の基準だと聞いたのではないかな？」

学生：「そうですね……」

ちなみに、自然界の牛は、あまり太っていません。私たちがイメージする牧

場の牛たちは、種乳あるいは食肉の目的で人為的に太らせているのであり、もしも太っているのが『牛』だと定義すると、自然界の牛はみな『馬』ということになってしまいます（世界には、牛を神聖な動物として大事にして、自分達が賢しくても野良牛に食べ物を分け与えて生かしているような地域もあります。私が訪ねたあるインドの貧しい町では、人々が賢いが故に、その野良牛もガリガリに瘦せていました）。

### ② 足速説

先生：「それでは、隣の君はどうかな」

学生：「僕も、その動物は『馬』だと思います。ただ、理由は違って、足が速いからです」

先生：「君はこの動物が走っているところを見たことがあるの？」

学生：「いい、走っているところを見たことはないのですが、何となく足が速うだと思えます」

先生：「まあ、その点は細くとして、君の基準からは、そうすると足の速い牛は『馬』だね」

学生：「いえ違います。それは牛だから『牛』です」

先生：「おかしいね、さっきは足が速いか遅いかで区別の基準だと聞いたのではないかな。まあ、いいでしょう。その点も細くとして、だいたい時速何キロくらいから『牛』と『馬』が区別されるのかな？」

学生：「時速何キロってかわれちゃって……」

ちなみに、自然界の牛は、結構、足が速いようです。スペインの伝統的なお祭りでは、怒濤のごとく町の中を駆け回ってくる牛から逃げまどう人々の映像を見たことがある人もいます。また、上記のやりとりの後半では、時速何キロメートルくらいが足が速いか遅いかの分かれ目になるかが質問されていますが、実は、これは太っているか細まっているかの区別の話にも同様当てはまる問題です。

### ③ 首長説

先生：「それでは、さらに隣の君はどうですか」